

やまとの 未来の学園づくり かわら版

vol.7

第2回学校運営部会「協働的な学びの確保～小学校の再編について～」

日 時：令和5年2月9日（木）18:00～19:30

場 所：光市立大和コミュニティセンター



子どもたちの協働的な学びを確保するための方法である「合同学習の日常化（パターン①）」と「小学校の再編（パターン②）」について、第3回ワークショップでいただいた様々な意見を部会員で共有し、メリット・デメリットについて話し合いました。今回の学校運営部会では15名の出席がありました。

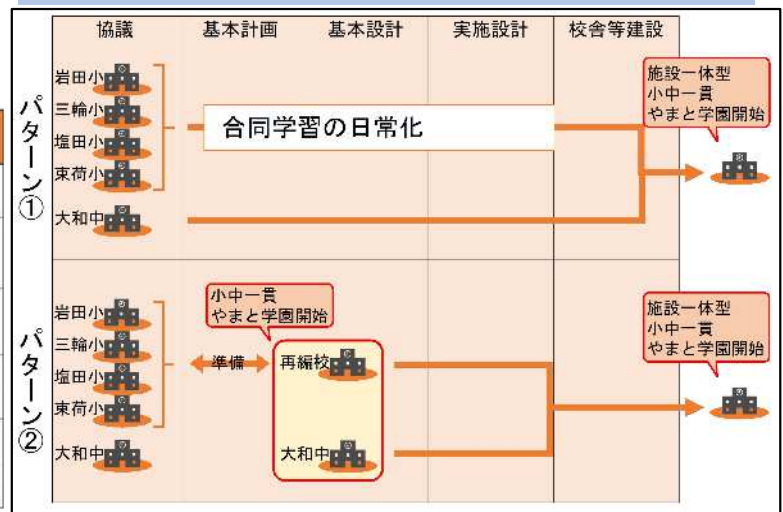
第2回学校運営部会の内容

- ・第3回ワークショップの報告
- ・現在の合同学習の取組みについて
- ・協議内容についての説明、協議

本日の協議内容

下図の「パターン①（合同学習の日常化）」と「パターン②（小学校の再編）」のメリット・デメリットについて考察を深める。

区分	パターン① 合同学習の日常化	パターン② 小学校先行再編
【学び】 ●協働的な学び	確保○	確保◎
【児童】 ●新たな生活への適応や学習環境の安定等への配慮		必要
【教職員】 ●教職員数（現状に対して）	維持	減 ※新しい学校規模に応じた配置
【地域連携】 ●地域との連携・協働	これまで同様	新たな地域連携等検討
【組織】 ●PTA ●学校運営協議会	これまで同様 これまで同様	新たなメンバーで構成 新たなメンバーで構成



いただいたご意見、ご質問とそれに対する回答（抜粋）

Q1：小学校再編に時間がかかって施設一体型小中一貫やまと学園の開始が遅れるのでは？

A1：小学校再編は施設一体型小中一貫やまと学園の開始に向けた準備と並行して進めますので、小学校再編によって開始が遅れることはありません。

Q2：小学校を再編したら教員数はどうなるの？

A2：4校が1校に再編された場合は、原則として1校分の教員数になります。

学年に1人しかいない学校があるため、切に早い対応を希望する。

子どもにとって負担が少ない方法が良いと思う。

小学校を再編する場合は、最短でも令和7年度の開始になるのではないかな。

第3回執行委員会「協働的な学びの確保～小学校の再編について～」

日 時：令和5年2月15日（水）18:00～19:30

場 所：光市立大和コミュニティセンター

報告書 QR コード ▶



第3回ワークショップと第2回学校運営部会の報告、学校運営部会の報告書（協働的な学びの確保～小学校の再編～）案の説明を受けて質疑応答を行いました。執行委員会で出た質問や意見を踏まえて準備委員会としての報告書を作成し、2月16日に教育長に提出しました。



第3回執行委員会の内容

- ・ワークショップと学校運営部会の報告
- ・報告書（案）の説明
- ・今後の協議テーマについて

いただいたご意見など（抜粋）

■スピード感を持って進めてほしい。できれば4小学校の再編が望ましい。

■複式学級は主体的に学習を進めていく力がつく、先生の目が行き届いているなどのメリットがある。

■合同学習は岩田小・三輪小の児童にも良い取組だと思うが、目標とする頻度が明確になれば再編と比較しやすいのではないかな。

■4小学校を再編する形がやまと学園の実現につながるという認識を持っている。

■デメリットはあると思うが、それを乗り越えて4小学校の再編を早く進めてほしい。

■小学校と密着している地域文化の継承が難しくなるのではないかと危惧している。

■子どもたちの社会力を育むため、大きな校区、集団を作り、多様な人と接触する機会を増やすことが重要である。

■合同学習を見て、休み時間に子どもたちが笑顔で遊ぶ姿が印象的だった。来年度はさらに拡充が計画されており、期待している。

■報告や協議の結果を地域の方々や保護者の方々にお知らせしてほしい。

■これから小学校に入学する子を持つ親御さんの話も聞きたい。

準備委員会報告書のまとめ

■「合同学習の日常化」「4小学校の再編」とともに、多くのメリット・よさ、デメリット・課題・懸念があった。また、早期の「4小学校の再編」を願う意見も多くあった。

■協働的な学びの充実のためには、一定数の規模が確保できる「4小学校の再編」の方が望ましいと考えられるが、児童の負担や地域との連携等についても考慮した上で検討していただきたい。

■「合同学習の日常化」については、今後の日常化の頻度及び内容がどうなるのかによって、是非を判断する必要がある。

■「4小学校の再編」を実施すると仮定した場合、時期については最短でも令和7年度の開始とすることが適当である。また、再編場所については検討が必要である。

■子どもにとってよりよい方策はどちらか、という視点を基本に置いて、検討していくことが重要である。

■これから社会を形成していく上で必要不可欠な「社会力」を子どもたちが身に付けるには、私たち大人がそうした環境を整える必要がある。

■本準備委員会で協議し、考察した内容を踏まえ、子どもたちの学びを第一義に、子どもにとってよりよい協働的な学びの環境が確保されるよう、スピード感を持った検討及び対応をお願いしたい。



執行委員会
宮尾委員長

報告書（案）には合同学習の日常化、4小学校の再編ともに多くのメリット、デメリットが記載されています。

これらを念頭におきながら様々なことにスピード感を持って進めていく、これが大人の責任であり、やがて子どもたちを第一に考えるということにもつながっていくのではないかと思います。